

情報文化 学生瓦版

2016年8月25日

長崎研修2016

①市内探索の巻

発行 情報文化学科

編集長 佐藤 ダイカンザカ

顧問 神部 キネンザカ

山口 オランダザカ

学生 相田 ヘイフリザカ

鶴澤 バッテンザカ

遠藤 トロトロザカ

齋藤 ピントコザカ



研修 長崎研修2016

今年度の長崎研修には、学生28名が参加し、神部先生、山口先生に引率していただいた。長崎の歴史や文化、平和について理解を深めた。2面

今年も情報文化学科は長崎の街を歩く



さっさとサマケズ、サカニモマケズ、



平成28年8月15日から19日にかけて長崎研修が実施された。今年も1年生から4年生までの学生28名が参加し、神部先生、山口先生に引率して頂いた。暑い暑さの中、参加者は長崎の文化、歴史、そして平和についてしっかりと学んだ。

5日間の研修は行事が盛りだくさんであった。長崎空港に到着すると、横断幕を持った長崎空港の方々が私たちを温かく歓迎して下さった。その後、市内中心部に移動し、3泊お世話になる「ホテルニュー長崎」に荷物を預けると、早速オリエンテリングの始まりだ。7つのチームに分かれ、長崎の街を理解できるように設定されたチェックポイントを回り、写真を撮る。八坂神社で縁起物とされる「ホオズキ」を頂いたり、道に迷っている

と住民の方が案内して下さったりと、長崎の方々の心の温かさに触れた。オリエンテリングが終わると、浴衣や甚平に着替え、精霊流しを見学した。至る所で爆竹の耳をつんざくような音と、摺鉢の音と掛け声が響き渡り、大小の精霊船が流され、故人を盛大に弔う様子に大変驚いた。

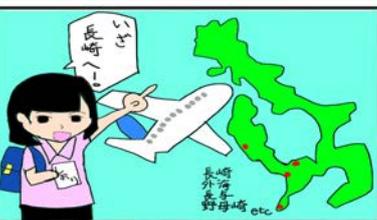
2日目は長崎市が時間をかけて復元をしている出島を見学した後、長崎市役所にて田上富久市長と昼食をとりながら、長崎の街や平和について様々なお話を聞かせて頂いた。(巻参照) また、長崎市文化観光部の股張一男次長より観光に関する説明があり、長崎市の

取り組みについて学んだ。市役所を後にして、大浦天主堂、グラバー邸を訪れ、幕末から明治期の長崎を学んだ。



長崎大学での集合写真

長崎研修4泊5日の巻



作: 相田 ヘイフリザカ

たくなつたが、私たちがしつかりと学び、それを後世に伝えていかなければならないと思いを新たにしました。永井隆記念館や如己堂も訪れ、永井博士の平和への祈りを受け継ぎたいと感じました。

4日目には長崎観光大使である岡博先生が計画して下さったバスツアーに参加し、知る人ぞ知る長崎の名所を巡り、たくさんの発見をすることができました。最終日は軍艦島クルージングの後、長崎市中心部へ戻り、各自のテーマに基づいて見学した。(巻参照)

今回の長崎研修を通して、文化、歴史、平和を学び、経験したことで多くのことを学び、新しい課題を発見することができました。(巻参照) さらに、長崎の人の温かさに触れ、私たちの心も温かくなりました。計画、準備、引率をして頂いた先生方、関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいでした。

英語でひとこと

[A Damon and Pythias Friendship.]

親密な間柄という意味で、「水魚の交わり」ということわざである。英語の語源は「デーモン」と「ピュティアス」が命をかけて友情を育んだギリシャ神話である。研修3日目に、長崎大学を訪問した。私にとっては初めての訪問だった。長崎大学の方々と互いの大学生活について話し合い、交流を深めた。なかでも、両大学の4年生の方々の取り組んでいる卒業研究についての議論はとてもしっかりと目にして、互いに相手を尊重し、信頼関係ができれば、新鮮な経験になることが分かった。来年は私もこの水魚の交わりの中心に居たい。(鶴澤 バッテンザカ)

巡声所語 (じゆんせいご) (しよご)

長崎の街並みはビルに交って貴重な建物や海外の建設物などが多くあり、異国情緒あふれる不思議な所だった。あるところはオランダ風、少し歩くと中国風とコロコロ景色が変わり、どこにいてもかわからなくなることもしばしば▼随所に見られる坂と階段、情け容赦ない日差し、あちこちで鳴くクマゼミに苦戦しながらのオリエンテリングだった。どこへ行くにも苦労した。その分、その途中で食べたチリンチリンアイスやお菓子はとてもおいしく、頑張った自分へのご褒美だった▼途中、道案内をして下さったり、名所の説明をして下さったりと長崎に住む人々の優しさに触れることもできた。また、長崎の活気あふれる街並みや、伝統を重んじる場所が強く印象に残った。長崎でなければ決して知ることのできない多くの生きた勉強をすることができた。

長崎大学教育学部 の皆様
おかげさまで
長崎大学 江戸川大学

長崎名物は何でもそろそろ
おみやげは長崎空港で